

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第52週 (12/25-12/31) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	52週	51週	50週	49週
小児科	15	18	18	18
眼科	4	5	5	5
インフルエンザ*	23	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数
「定点当たりの患者数」とは報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市				千葉県	
		注意報	12/25-12/31	12/18-12/24	12/11-12/17	12/4-12/10	12/18-12/24
			52週	51週	50週	49週	51週
小児科	RSウイルス感染症		1	3	1	1	44
	咽頭結膜熱		2	12	12	4	82
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		20	36	36	51	483
	感染性胃腸炎		105	187	233	179	1,177
	水痘		0	4	14	6	84
	手足口病		5	19	15	21	84
	伝染性紅斑		0	1	1	0	7
	突発性発しん		4	7	7	8	40
	百日咳		0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ		0	1	0	0	3
	流行性耳下腺炎		1	2	3	4	23
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	★◎	285	213	136	64	2,771
			12.39	7.61	4.86	2.29	13.01
眼科	急性出血性結膜炎		1	0	0	0	1
	流行性角結膜炎		1	1	1	0	18
			0.25	0.20	0.20	0.00	0.51
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		1	0	0	0	5
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	IGRA検査	レジオネラ症	男性	50歳代	病原体抗原の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出等	侵襲性インフルエンザ菌感染症	女性	10歳未満	病原体の検出
結核	女性	40歳代	病原体等の検出				
結核	女性	70歳代	IGRA検査	侵襲性髄膜炎菌感染症	男性	70歳代	病原体の検出
結核	女性	70歳代	IGRA検査	梅毒	男性	30歳代	血清抗体の検出

・第52週は、結核5件(215)、レジオネラ症1件(7)、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件(1)、

侵襲性髄膜炎菌感染症1件(1)、梅毒1件(33)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

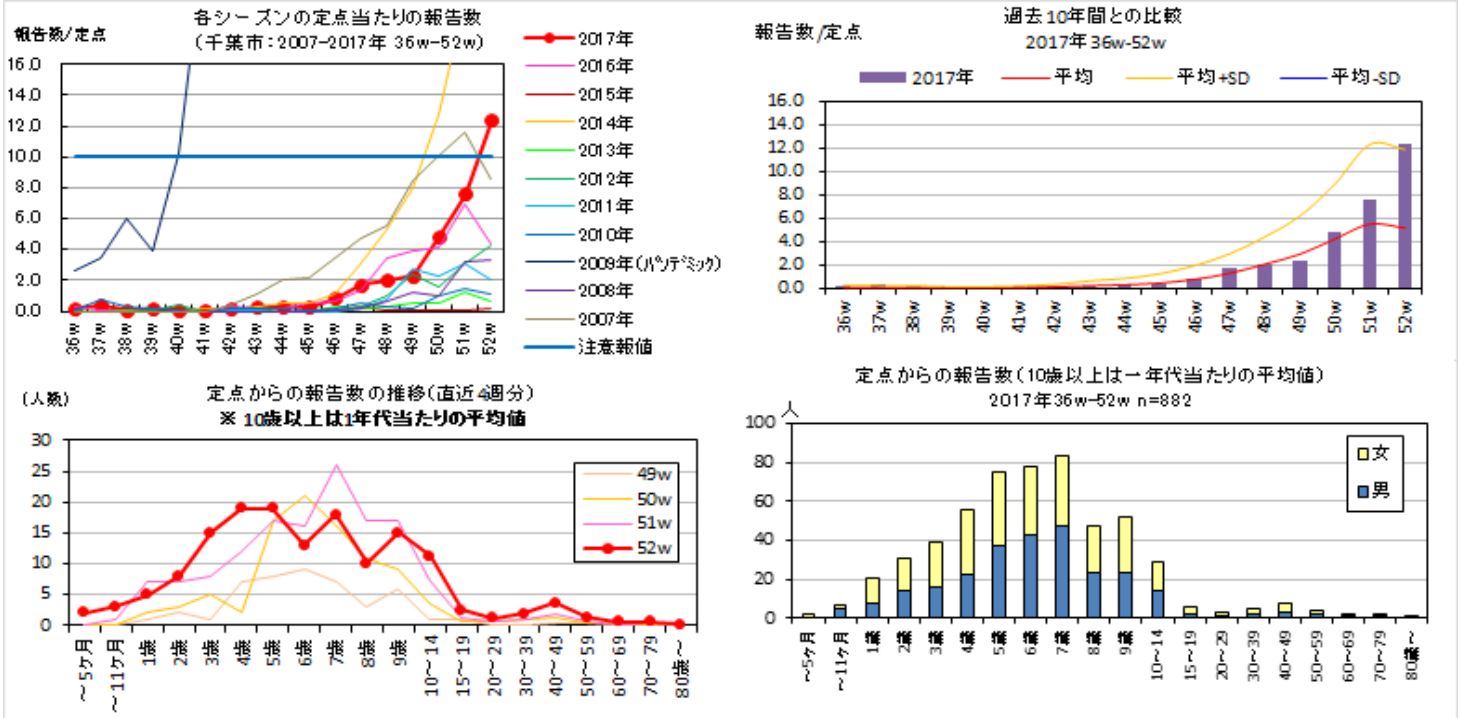
定点当たり報告数 第52週のコメント

<インフルエンザ>前週より更に増加し12.39となり、流行発生注意報基準値を上回った。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

<インフルエンザ>

全国レベルの第51週は流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回り、過去10年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除き2014年に次いで多くなっています。都道府県別では宮崎県、長崎県、岡山県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同じレベルとなっています。千葉市の2017年第52週は前週より増加し12.39となり、流行発生注意報基準値を上回りました。過去10年の同時期と比べるととも多くなっています。区別の発生状況は、中央区(17.6/定点)で流行発生注意報基準値を上回り最多で、40歳代で最多、一年代当たりでは7歳で最も多く発生報告がありました。その他、美浜区以外の全ての区で流行発生注意報基準値を上回っています。今シーズンである2017年第36週から第52週までの累積報告数(n=882)によると、性別では男性が47.4%(418名)、女性が52.6%(464名)で、年齢階級別では7歳(9.4%:83名)、6歳(8.8%:78名)、5歳(8.5%:75名)の順に多くっており、20歳未満は全体の75.3%、10歳未満は全体の55.7%となっています。



	第52週	市全体	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区
基準値超過		注意報	注意報	注意報	注意報	注意報	注意報	-
過去10年の同時期との比較		とても多い	とても多い	非常に多い	とても多い	多い	とても多い	多い
昨年の同時期との比較		多い	多い	多い	多い	多い	多い	多い

<梅毒>

全国レベルの第51週現在の発生届累積数は5662件で、過去10年の同時期と比べると最多であった昨年の約1.3倍となっています。都道府県別では東京都、大阪府、愛知県の前で多く報告されています。千葉県は全国第9位の多さとなっています。千葉市は第52週に1件の発生届があり2017年の累積数は33件で、過去10年と比べて最多となっています。内訳は、男女別では男性が60.6%(20名)、女性が39.4%(13名)で、年齢階級別では20歳代(42.4%:14名)、40歳代(15.2%:5名)、60歳代(12.5%:4名)の順で多くなっています。病型は、早期顕症梅毒Ⅰ期が39.4%(13名)、早期顕症梅毒Ⅱ期が42.4%(14名)、晩期顕症梅毒が6.1%(2名)、無症状病原体保有が12.1%(4名)となっており、感染経路は、性的接触が90.9%(30名)、再発が3.0%(1名)、不明が6.1%(2名)となっています。性的接触の内訳は、性交が63.3%(19名)、経口が10.0%(3名)、性交及び経口が20.0%(6名)、不明が6.7%(2名)で、異性間が76.7%(23名)、同性間が3.3%(1名)、不明が20.0%(6名)となっています。

